

家畜伝染病発生時における防疫作業従事者への惨事ストレス対策

京都府中丹家畜保健衛生所

○坂田 千鶴子 山本 哲也

【はじめに】惨事ストレスは、脅威（惨事）に直面した人に起こるストレス反応であり、心的外傷後ストレス障害（PTSD）の要因になり得る。家畜伝染病発生時の防疫作業が惨事ストレスを招くことが懸念されることから、ストレス軽減の対策を検討。【経過と対応】家畜防疫員を対象に消防署職員を講師としたリーダーシップ研修会を開催し、惨事ストレス対策の重要性を理解した上で、①鶏殺処分訓練後に作業従事者同士によるグループミーティングを行い、ストレス軽減効果を検証。②家畜伝染病発生県における惨事ストレス対策について発生県に派遣された府家畜防疫員にアンケート調査を実施。③防疫作業従事者の健康管理を担う保健所職員と惨事ストレス対策の必要性を協議。【成果】①グループミーティングにより、問題点等の共有・共感はストレス軽減に有効であることを確認。②アンケート調査では、派遣先の県でグループミーティング等の積極的な惨事ストレス対策は講じていなかったことを確認。③グループミーティングの有効性を保健所職員と共有し、管内3箇所の作業従事者集合基地にミーティングスペース設置を検討。【今後の対応】防疫作業後、実際に強いストレスから、体調を崩した作業従事者もいることから、家畜の殺処分は惨事ストレスとなり得る。作業従事者の健康管理のためには、殺処分等の防疫作業後のストレス軽減対策が重要であり、今後もより効果的な対策を検討していく。